

杉並区の未来を語る

政治は、どこまでまちを動かせるのか。

現場で見えてきた「つなぐ力」と「決断」の重要性。

地域・経済・スポーツの視点から、具体的な課題と可能性、そしてこれからの方向性を語ります。

衆議院議員(東京27区)

黒崎ゆういち



第80代杉並区議会議員長

大和田伸



黒崎ゆういち(第51回衆議院議員総選挙にて初当選)

- 1976年11月19日生まれ(49歳)
- 学生時代、明大中野中学でラグビーに会う
- 明治大学附属中野中学・高等学校卒業
- 背番号「1番」をつけ、明治大学の黄金時代を築く
- 明治大学政治経済学部政治学科卒業
- 明治大学公共政策大学院がバナンス研究科修了
- 日商岩井株式会社・株式会社メタルワンに所属
- 社会人15年目に夢であった政治への挑戦を決意
- 2015年、港区議会議員に出馬し、初当選(1,406票)
- 2019年、港区議会議員に出馬し、2期目当選(2,148票)
- 2024年、衆議院選挙(東京27区)に出馬するも、落選(59,952票)
- 2026年、衆議院選挙(東京27区)に出馬し、初当選(85,249票)
- スイーツ&カラオケ&暴れん坊将軍を愛するゲコノミスト



公式LINEは
こちらから!

大和田伸(杉並区議会議員として4期、15年)

- 1980年9月9日生まれ(45歳)
- プロ野球選手を夢見て野球に打ち込むが、怪我で断念
- 二松学舎大学国際政治経済学部卒業
- 石原伸晃元衆議院議員の秘書(10年間)
- 2011年、杉並区議会議員選挙初出馬し、トップ当選
- 第80代杉並区議会議員長に就任
- 特別区(23区)議長会会長に就任(最年少での就任!)
- 東京高円寺阿波おどり振興協会、医療・障害者福祉・スポーツなど多くの役職を拝命
- 四児(11歳・8歳・5歳・1歳)の父親として育児奮闘中
- 趣味は野球、マラソンなどスポーツ全般
- 公務がない時は、子どもと一緒に登園するのが日課



公式HPIは
こちらから!



対談

まちの課題を、 政治は どう動かすか



地域



「声を聞く」だけで終わらせない

【大和田】黒崎さんは、港区議会議員時代から“まちの御用聞き”として、地域に向き合ってこられました。その積み重ねが、今の強みだと感じています。私も地域と向き合う中で象徴的な事例が、東高円寺駅通り商店会内のスーパー閉店でした。地域の皆さんの不安は非常に大きかったですね。

【黒崎】あの問題は、まさに「行政だけでは動かせない領域」でした。議員をやっていると、「税金で担うべきこと」「民間で対応できること」「いずれでも難しいこと」が混在して持ち込まれます。重要なのは、民間との接続です。

【大和田】まさにそこでした。正直、私の立場だけでは、民間事業者に当たることは難しかった。黒崎さんが動いてくださったことで、状況が一気に見えました。

【黒崎】私は商社出身なので、「つなぐ」という感覚は強いですね。今回も、デベロッパー、設計、流通などのネットワークから情報を集めていくと、「東高円寺にスーパーが入る動きがある」というのは、業界の中では見えていた。ただ、それは地域には出てこない情報なんです。

【大和田】だからこそ、地域は不安になる。「本当にスーパーは戻るのか」と。でも、黒崎さんから裏付けのある情報をいただいたことで、議会でも具体的に取り上げることができました。

【黒崎】結果として、政治が動いていることが見える。それ自体が安心感につながりますよね。

【大和田】はい。政治は結果がすべてと言

われますが、“動いていることを示す”ことも重要な役割だと実感しました。もう一つ大事なことは——最終的に決めるのは政治だということです。

【黒崎】同感です。意見を聞くことは大事ですが、決断しなければ何も進まない。

【大和田】まさにそこです。賛成・反対、両方の意見があるのは当然です。ただ、合意を待ち続けるだけでは、時間だけが過ぎる。それは未来への責任を果たしていない。

【黒崎】今回の件でも見えたのは、産業振興とまちづくりの連携不足でした。

【大和田】縦割りの限界ですね。

【黒崎】だからこそ、地域ごとに「何が足りないか」を見て、「容積率緩和」「商業施設誘導」「公共機能の組み込み」などを組み合わせる必要がある。これは区長の仕事です。

【大和田】そして、国・東京都との連携をどうつくるか。黒崎さんのように国とつながる政治があることで、杉並の可能性は確実に広がっていると思います。

スポーツ



まちの未来をつくるインフラ

【大和田】次にスポーツです。私たちの原点でもありますね。杉並を見て、どんな印象を持たれましたか？

【黒崎】率直に言うと、「資源はあるが、戦略が足りない」です。済美山や松ノ木など、施設はある。ただ、「屋内施設」「地域拠点」「全体設計」が不足していると感じました。

【大和田】まさに課題です。

【黒崎】これからは部活動の地域移行も進みます。学校だけでは支えきれない。だか

らこそ、子どもから大人まで使える「地域拠点」が必要です。

【大和田】杉並は住宅都市なので、大規模施設の整備が難しいという現実があります。「小規模施設を分散する」考え方もありますが——。

【黒崎】それだと“熱量”が生まれにくいですね。

【大和田】はい。私はあえて言いたいのは、「大きな拠点は必要」ということです。観客席付きアリーナ、総合体育館。これは絶対に必要です。

【黒崎】理由はスポーツだけじゃないですよ。

【大和田】そうなんです。「子どもが本物に触れる場」「大会が開催できる拠点」「災害時の避難所」「地域コミュニティの中心」すべてを兼ねるインフラです。

【黒崎】しかも杉並だけ無いんですよ。周辺区にはある。

【大和田】現状、杉並の大会が中野区で開催されるケースもある。これは変えなければいけない。

【黒崎】ただ、場所がない。

【大和田】そこが最大の壁です。

【黒崎】でも、可能性はあります。「高低差活用」「複合開発」「民間連携」「定期借地」など。宮下パークのような事例もあります。問題は——「誰が絵を描くか」です。

【大和田】まさにそこです。

【黒崎】その責任は政治にある。政治が描かなければ、誰も動けない。

【大和田】だからこそ私は、杉並を“伸ばす”区政をつくりたい。スポーツを軸に、「教育」「地域」「防災」すべてを底上げする。

【黒崎】期待しています。ビジョンが示されれば、必ず人は動きます。